

1  
今も9月5日  
548.12.30



姫鷲飛・中国  
外交部長が先  
ろ、衆院外務委  
員会訪中団と会  
見した際、日米  
安保体制につい

る望んでいると思われることについて  
は、周恩来、廖承志、張香山氏ら対日関  
係者の一連の発言によつてすでに自明の  
ことであった。

ているのである（『日本社会党訪中親善  
使節団報告書』）。

て、情勢の変化を理由に、きわめて肯  
定的な発言を行った経緯を民社党の末  
永英一氏が発表し、話題を呼んでいる  
（『毎日新聞』  
七三年十二月十  
七日）。この訪  
中団の中国留  
との会見内容に  
ついては、一部  
にすでに伝えら

もつとも中国は、日米安保体制や日本  
の防衛力の問題については、早くから、  
かなり現実的な考え方を示しており、  
たとえば、九五七年の日本社会党淺沼訪  
中団に対して毛沢東主席自身が、「将

ば別に驚くには値しない。ただ、国際環  
境の大きな変化にもかかわらず、十年い  
や二十年三十年一日のごとく国防感覚を  
脱し得ない政党が周章狼狽せざるを得な  
いだけである。

# 安全とコスト

中 嶋 嶺 雄

「安全にはコ  
ストがかかりま  
す」とはイサヤ  
・ペンタサン氏  
の言葉であっ  
た。『日本人と

れていたが、日米安保条約の廃棄を依然  
として第一義的に唱えている「革新外  
交」の側にとつて、この会見内容は、広  
く伝えられては困るものであった。

安全とコスト  
回旋灯  
今週の日本-1973.12.30

来、中国、日本、印度も原水爆をもつで  
しょう」と語り、また、「日本がアメリ  
カから完全に独立し、軍国主義が復活す  
ることがなくなり、外部から利用される  
こともなくなり、侵略の脅威がなくなれ  
ば、日本と中国との間に不可侵条約を結  
ぶことができます」と述べて、さらに「こ  
の場合、中ソ友好同盟条約の軍事項目を  
改正することが出来ます」ともつけ加え

ユダヤ人がベストセラーになったにも  
かわらず、この言葉のもつ意味がまだ  
日本人には十分に認識されていないのは  
皮肉だが、石油危機に見舞われて「ひよ  
わなGNP大國」が浮き彫りされている  
折だけに、国民も政党も、甘えやごまか  
しやなれあいではない建設的な安全保障  
論議をいままそ衷剣に展開せねばなるま  
い。

（東京外語大助教授）